

配布用資料



分散モデルについて

～Enterprise Systemから考える～

 **NAUTILUS**
株式会社ノーチラス・テクノロジーズ

Copyright © 2011 Nautilus Technologies, Inc. All Rights Reserved.

この資料は配布用です。
色々ありまして
かなりの歯抜けになってます。
ご容赦ください。



マジで取り組める分散モデルについて

狭義の並列コンピューティングではなく 分散コンピューティング

プログラムの個々の部分が同時並行的に
複数のコンピュータ上で実行され、ネッ
トワークを介して互いに通信しあう形態

というグリッド・コンピュータとかありますが、企業システムで普通に使えるモデルについての話です。



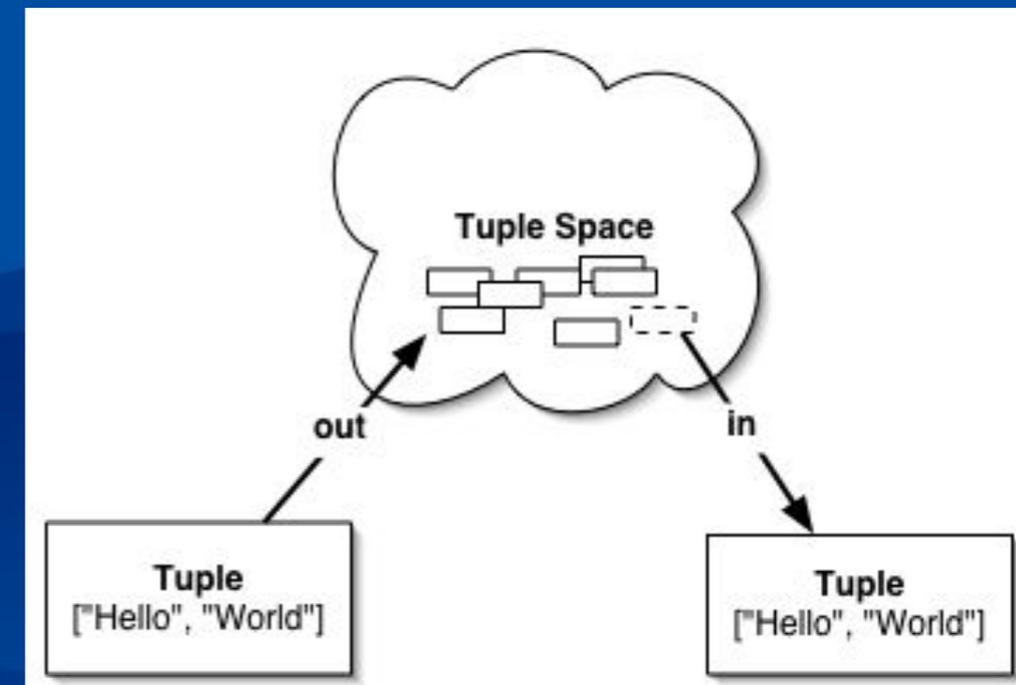
Linda Model

並列性のない既存言語を利用しながら 協調モデルにより並列性を実現

- Tuple Spaceという共有空間にTupleを入れ、Tupleを元に処理をするWorkerを複数配置することにより分散処理を実現

- Scalability

- プログラミングモデルの単純化



おっさん世代にとっては
JavaSpaceとかJiniだったりする訳で
なんか古い感じがしないではないけど
Tuple Spaceを構成する高性能な分散MQ
の登場や単純で信頼性の高いシステム化
のため、欧米のCloudサービス内で絶賛
活躍中

Linda Modelのキモ

1. Robustness:

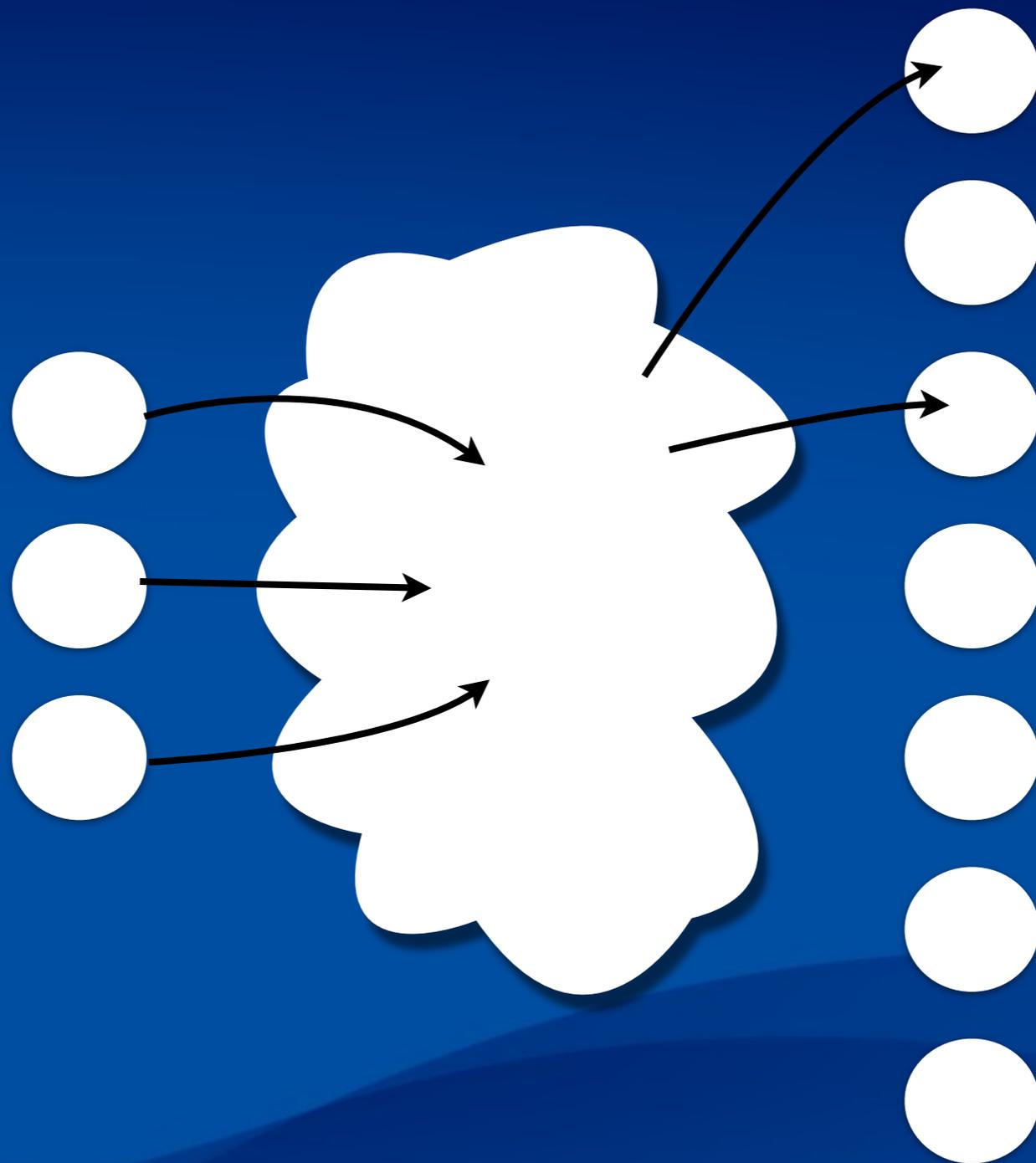
まあSpaceがこけたら終わりなのでこの堅牢性が重要

2. Scalability

状況監視しながらWorker数の制御するとScalabilityぐんとあがる（Tengineですね）

3. Maintainability

トラブったら関連するプロセスを綺麗に整理するとか、稼働中のバージョンマネジメントとか（Erlang OTPとかですね）



```
01 require 'rubygems'
02 require 'amqp'
03 require 'mq'
04
05 AMQP.start(:host => 'localhost' ) do
06   q = MQ.new.queue('tasks')
07   q.subscribe do |msg|
08     puts msg
09   end
10 end
```

```
1 require 'rubygems'
2 require 'amqp'
3 require 'mq'
4
5 AMQP.start(:host => 'localhost') do
6   MQ.queue('tasks').publish("hello world")
7   MQ.queue('tasks').publish("it is #{Time.now}")
8   AMQP.stop { EM.stop }
9 end
```

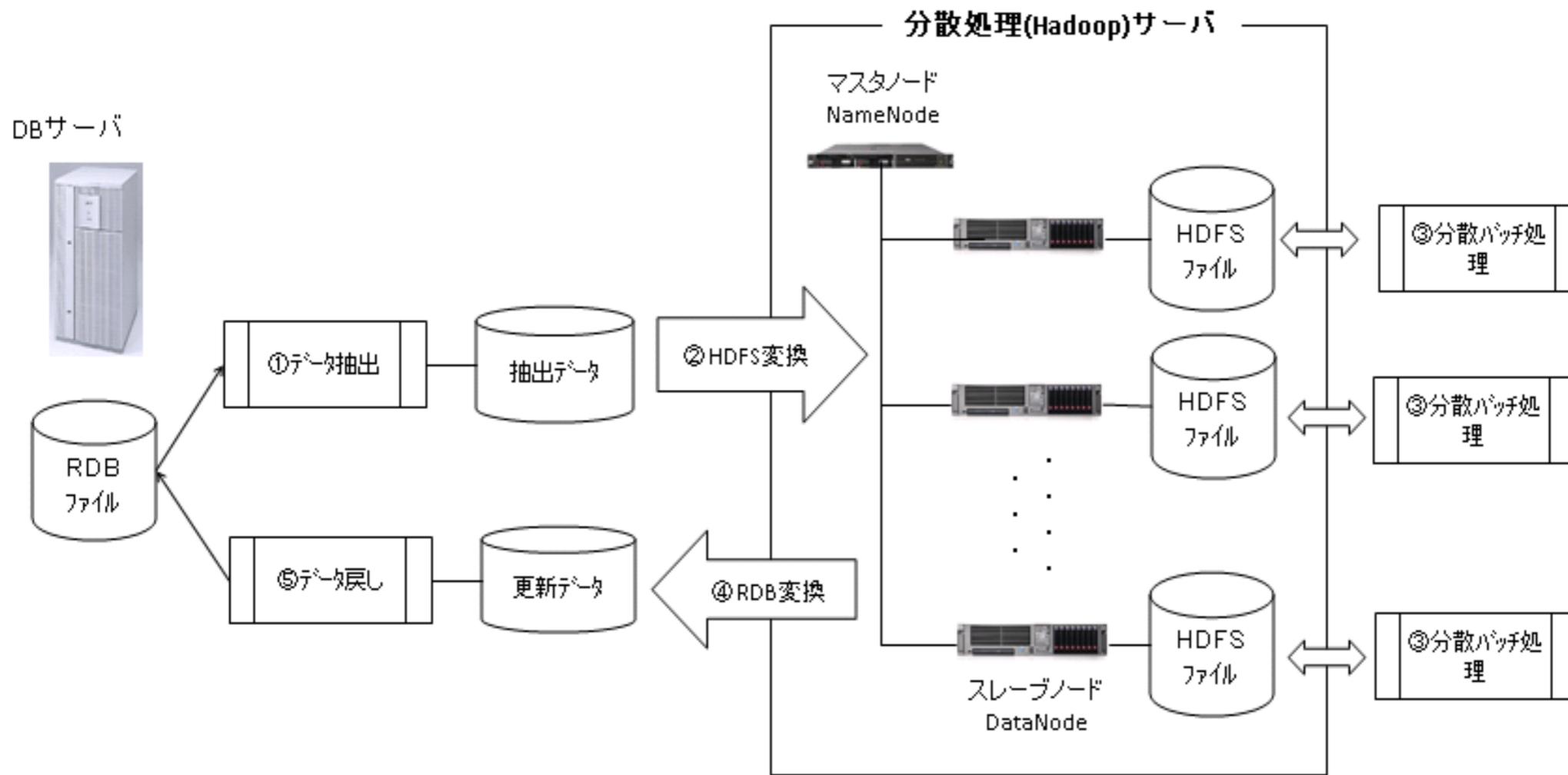


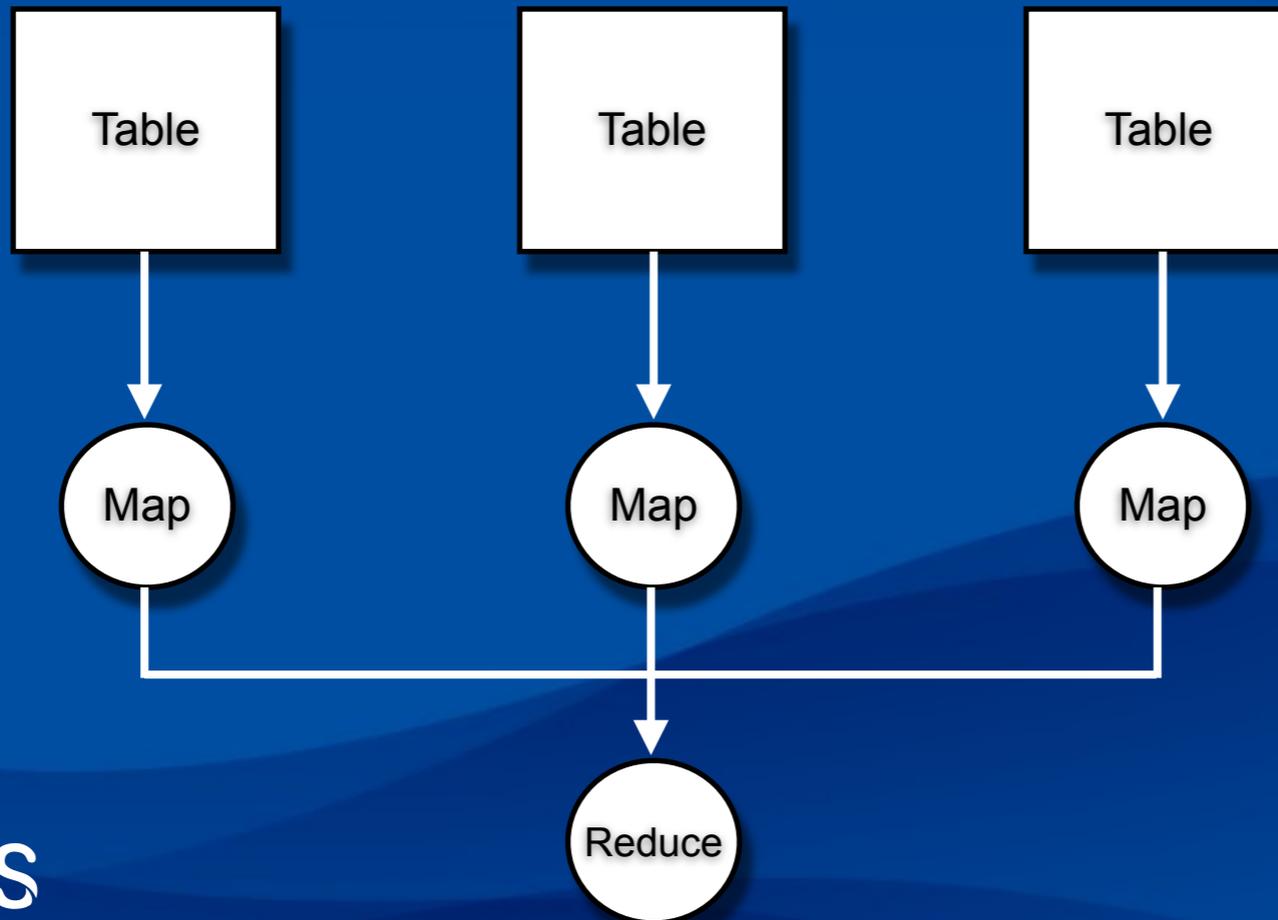
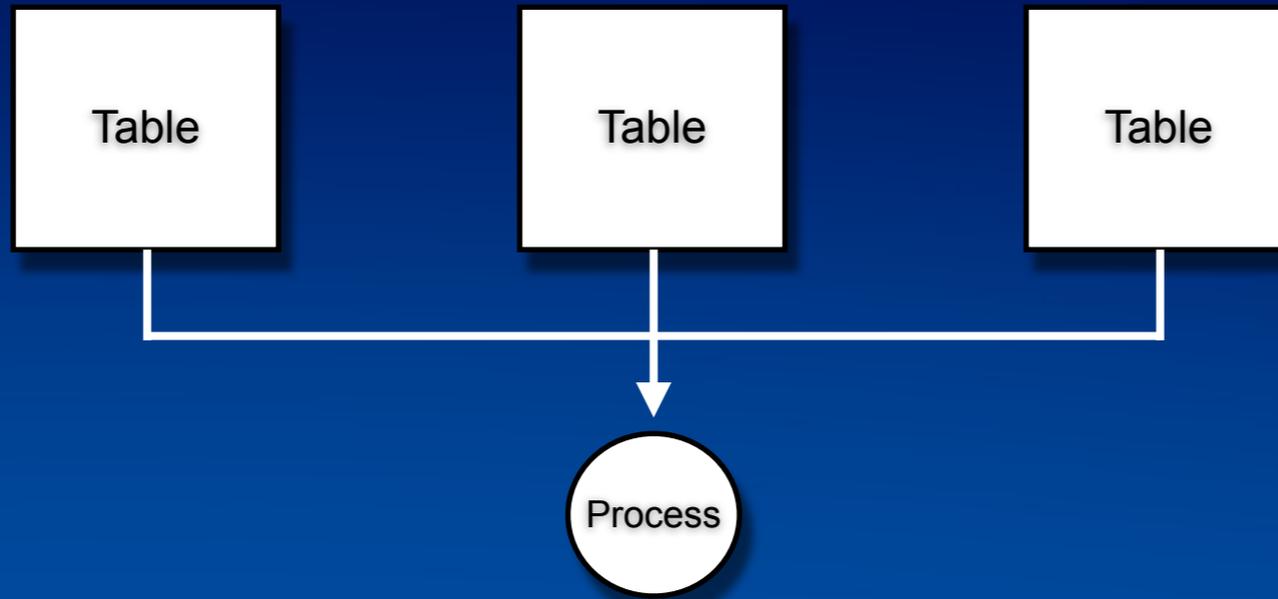
Map Reduce Model

1. データ分割: データをブロックに分割・配布
2. Map : 複数のサーバーで各ブロックを分散して処理
3. Sort&Shuffle : Map後のデータをSort&Shuffle、配布
4. Reduce : 結果を集約



monkey magic





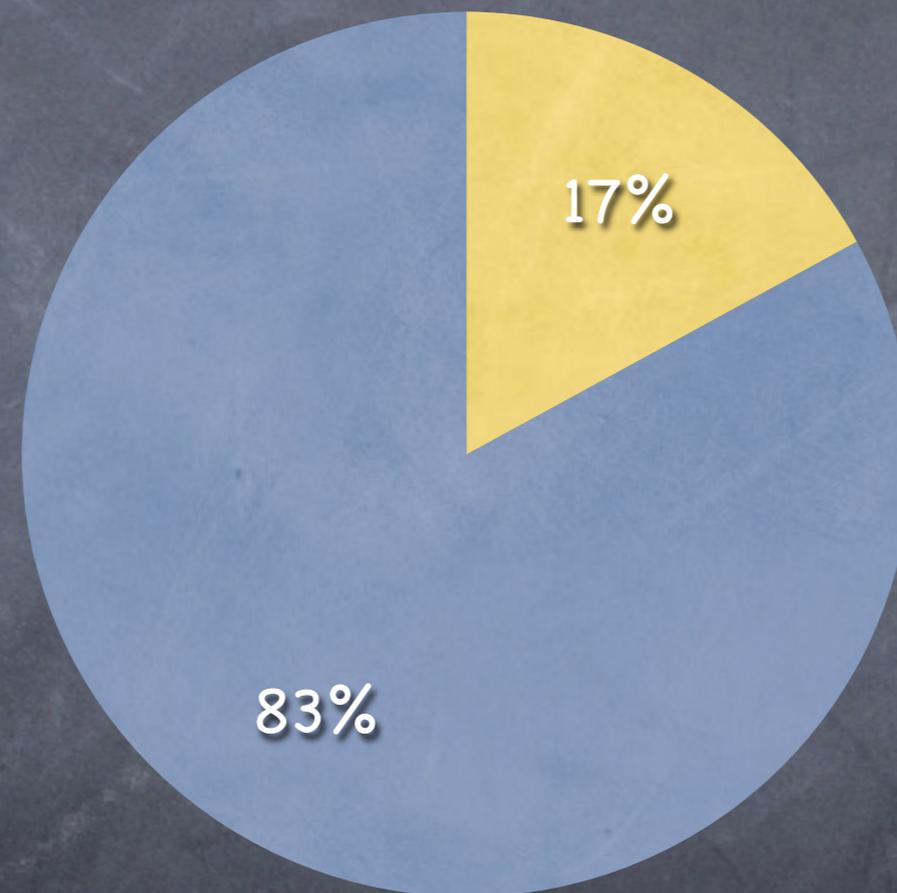
まあ、Hadoop使えばそれなりに色々そろって
るので、便利。

でも、Hadoop使わないでMap Reduceモデル
使うのもありな訳で。



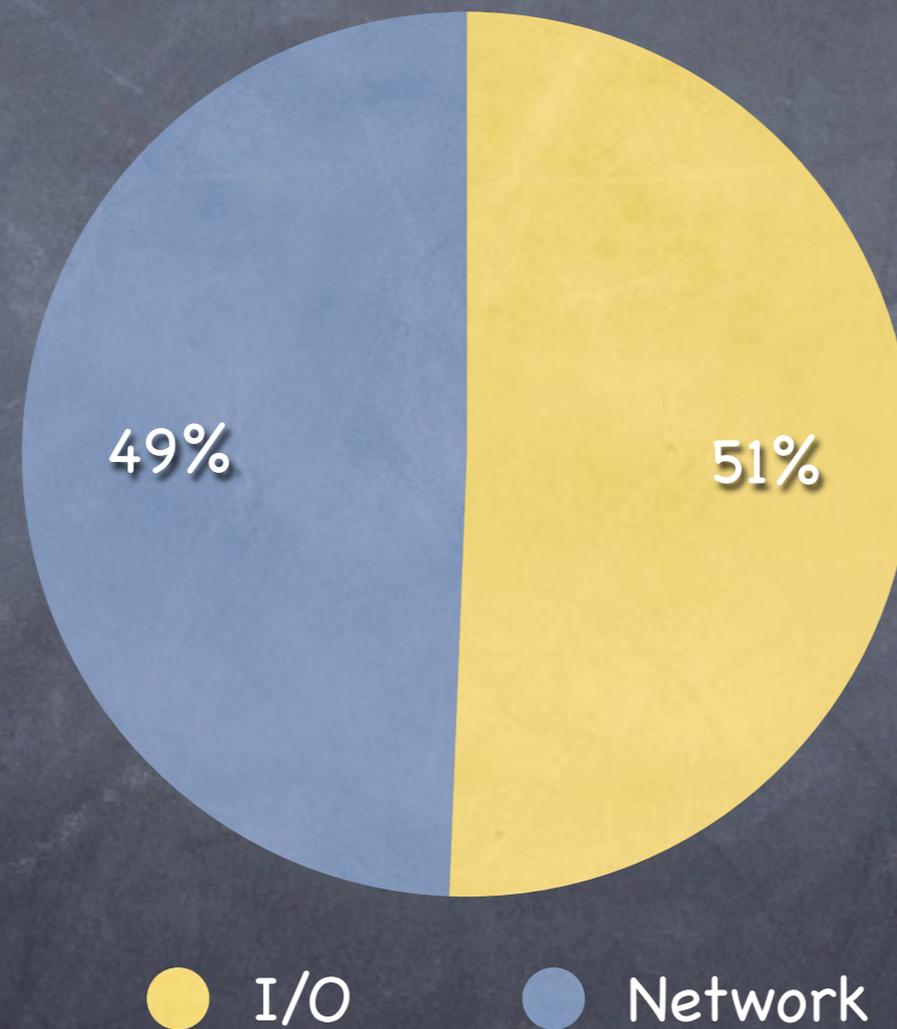
Self Management Model

Performance Ratio

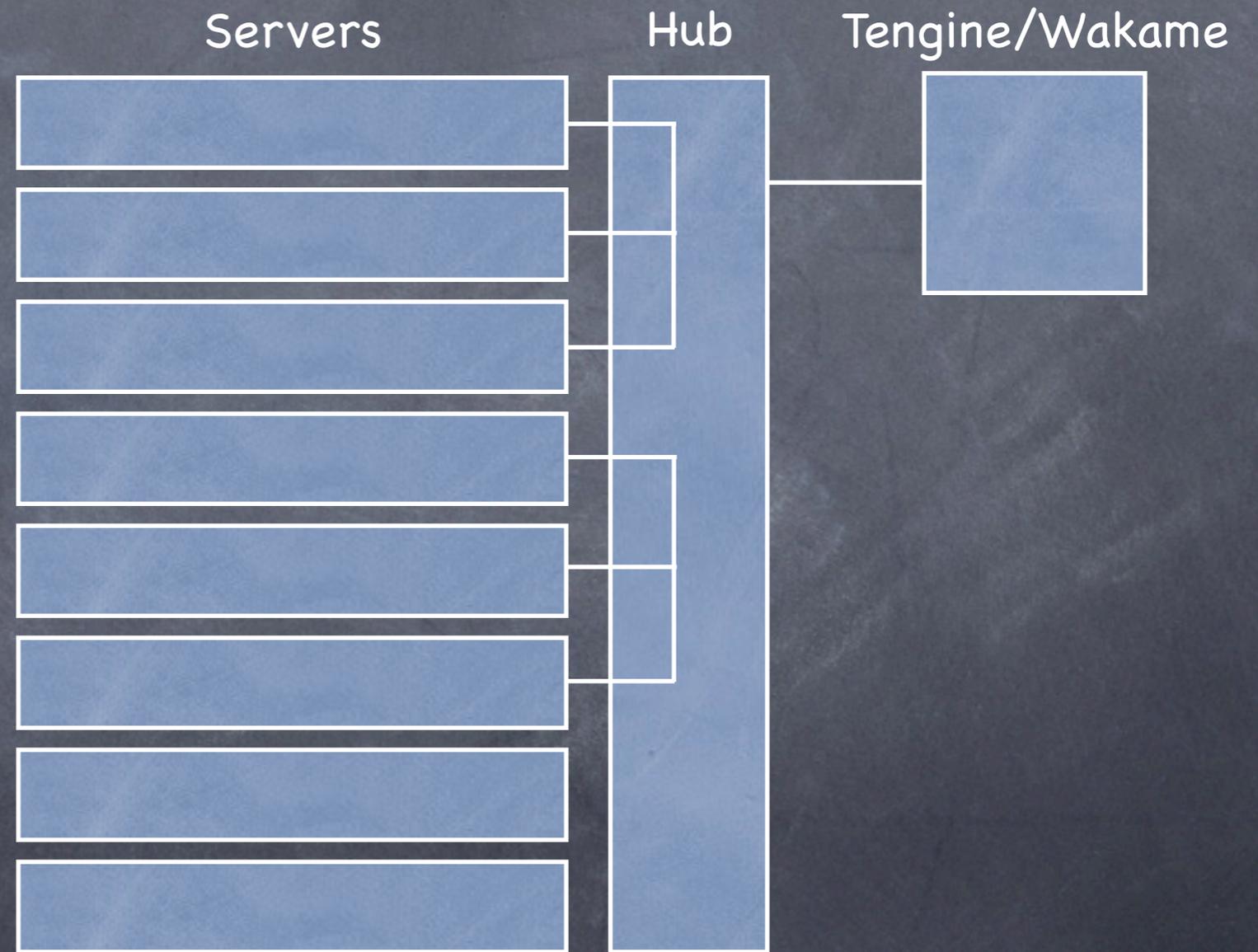
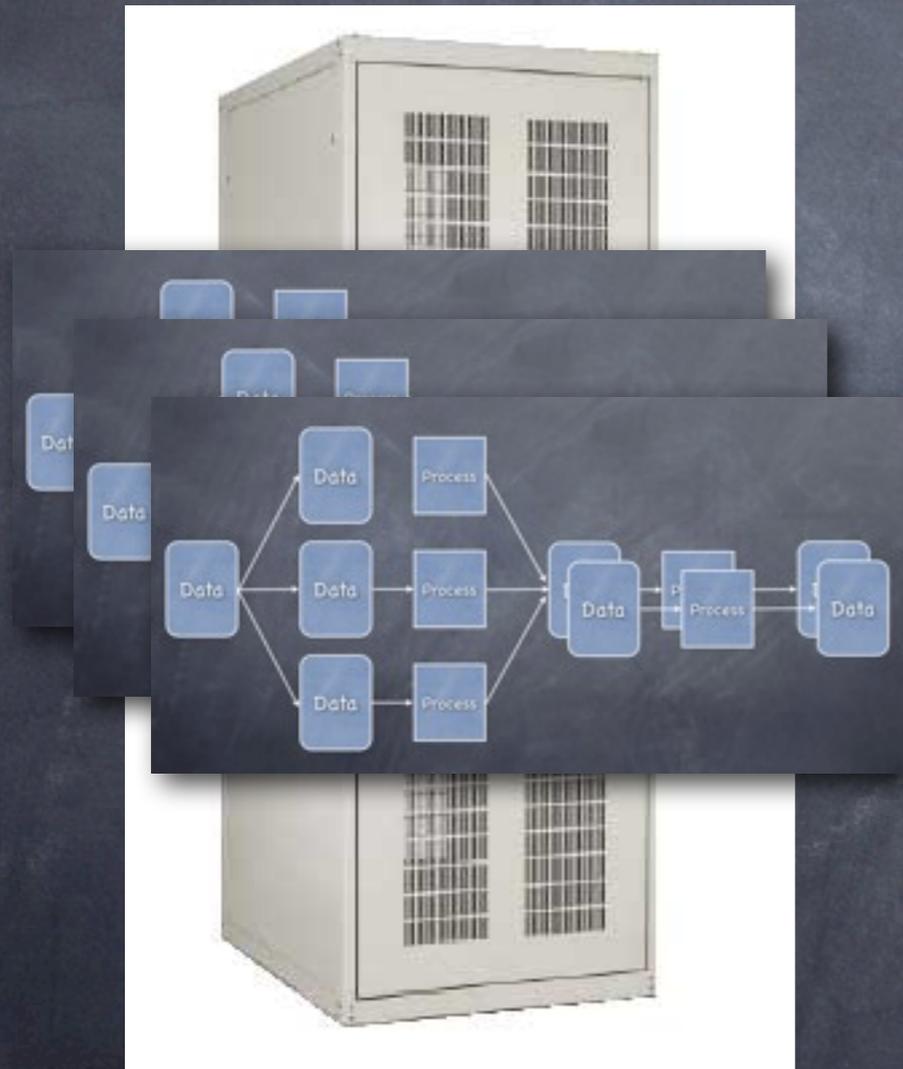


● I/O ● Network

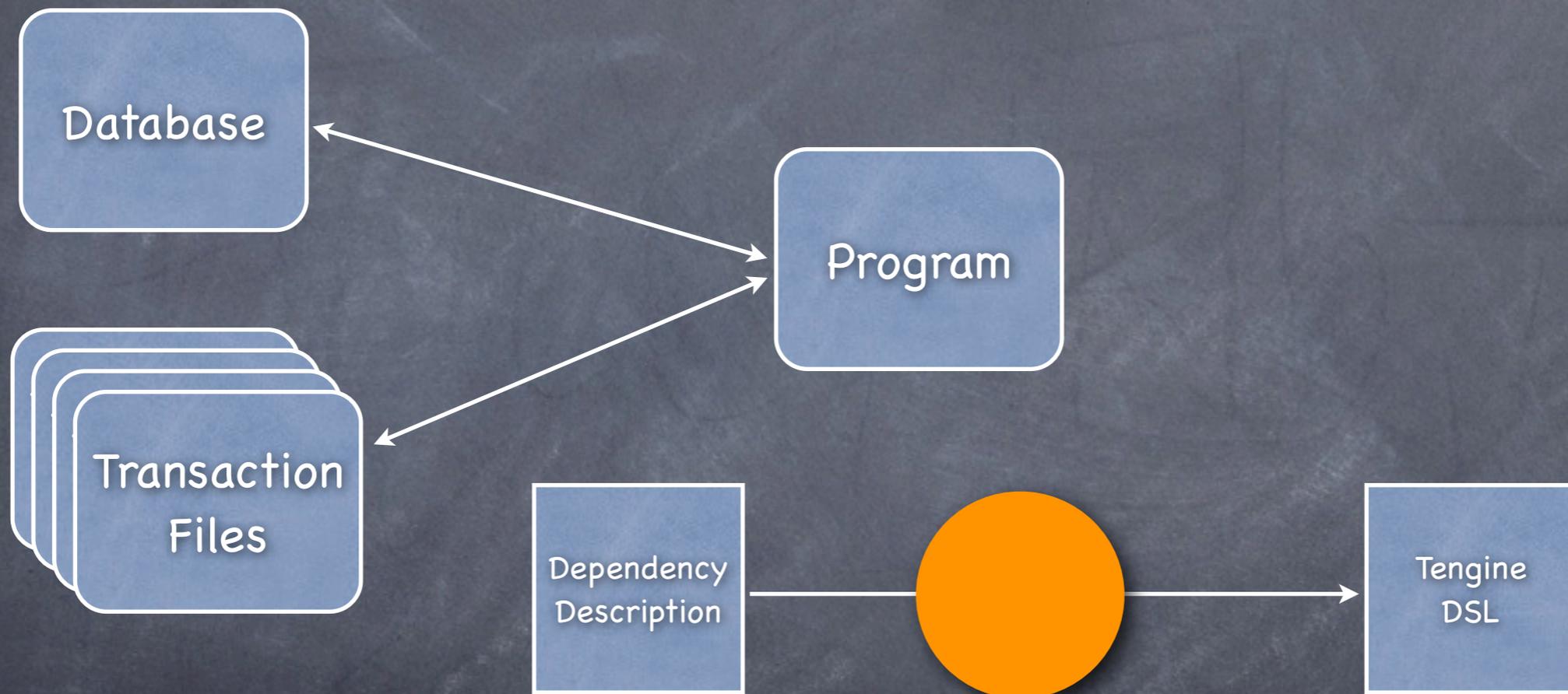
Performance Ratio



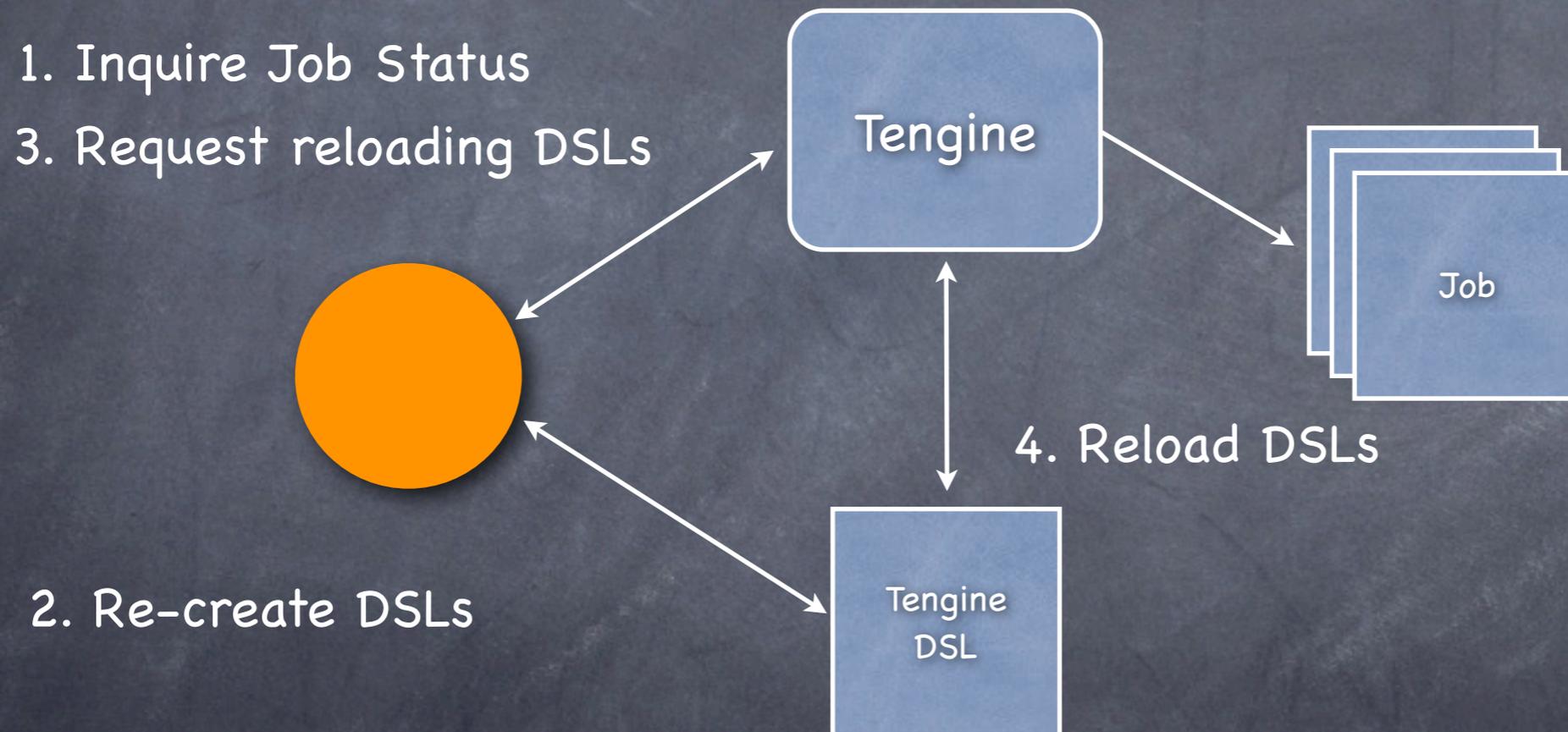
Multiple Segments

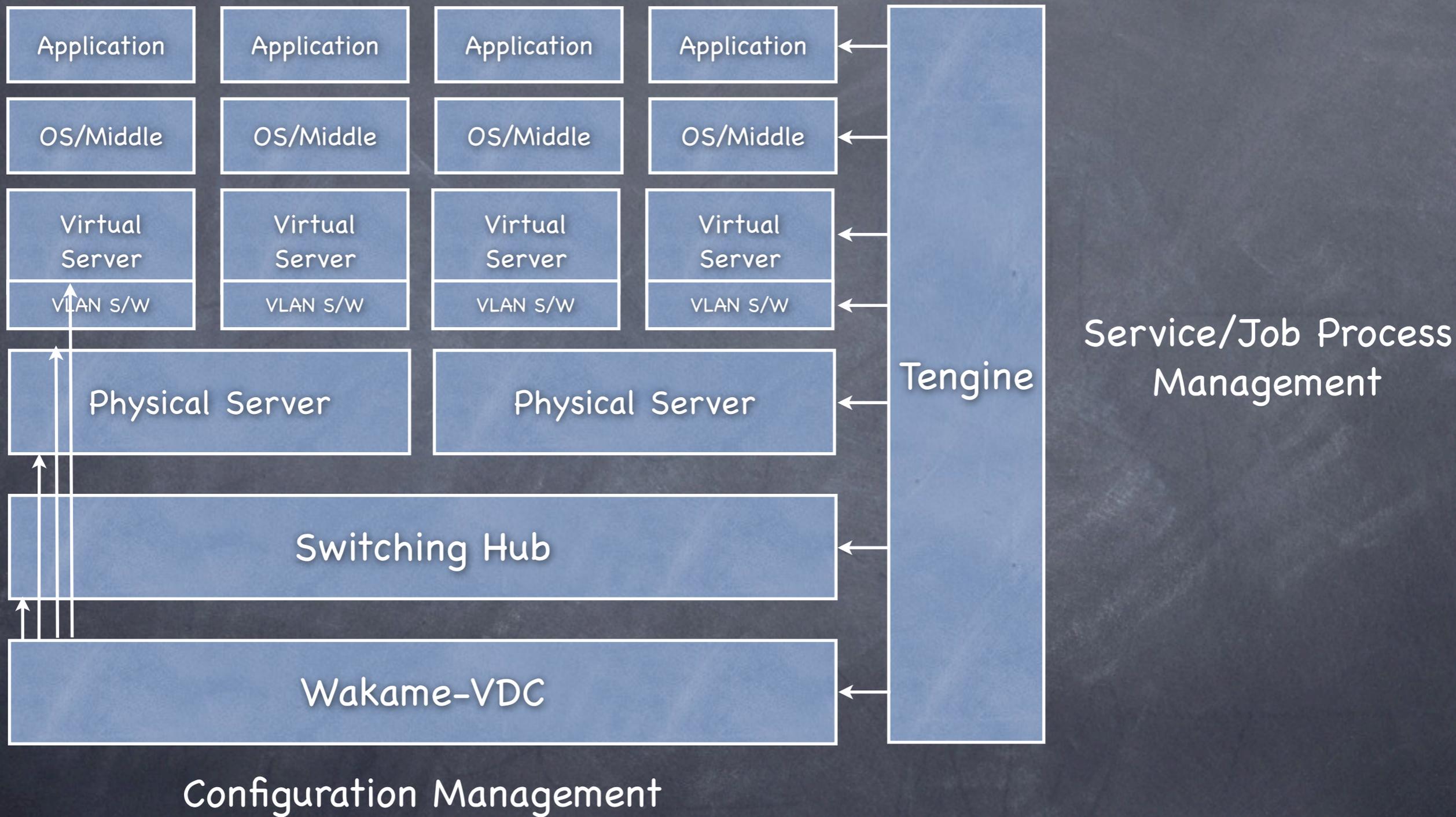


Performance Dependencies



Performance Dependencies







Combination Model



データの分散について